



水都大阪2009

AQUA METROPOLIS OSAKA 2009



公式記録
水都大阪2009実行委員会



水都大阪2009
AQUA METROPOLIS OSAKA 2009





水都大阪2009実行委員会 会長
平松 邦夫
大阪市長

8月22日から52日間にわたり開催した「水都大阪2009」は、内外から多数の皆様をお迎えし、大盛況のうちに幕を閉じることができました。

連携事業にご尽力いただいた企業や団体をはじめ、会期中の催しや行事の企画・運営、あるいはボランティアなど様々な形でご支援、ご協力いただきました皆様、そしてご来場くださった多くの皆様方に、改めて心から厚くお礼を申し上げます。

会期中は、都心部を囲んで口の字型に川が流れる、世界的にも珍しい「水の回廊」を中心に、それぞれの会場において参加型、水辺体験型、鑑賞型など趣向を凝らした数多くの催しが繰り広げられました。新型インフルエンザや台風の影響が懸念されたにもかかわらず、当初目標の100万人を大幅に上回る190万人もの皆様にお越しいただき、古くから水とともに栄えてきた「水の都・大阪」の魅力、水辺の楽しさを再発見していただくことができました。

そして、会期が終わった後も、橋梁のライトアップや川床、OSAKA旅∞（おおさかたびめがね）などは引き続き実施されており、水辺では、今も多くの人が思い思いの時間を過ごされるなど、一過性のイベントでは見られないような効果が現れています。

「水都大阪2009」のテーマである「連携・継承・継続」とおり、このイベントをきっかけとして、これからも、多くの人が集い、賑わう新しい水辺のまちづくりに力を注ぎ、魅力と活気あふれる「元気な大阪」をめざしてまいりますので、皆様方の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

「水都大阪2009」に関わられた全ての皆様に改めて心から感謝申し上げまして、ごあいさついたします。



水都大阪2009実行委員会 副会長
下妻 博
社団法人 関西経済連合会 会長

「水都大阪2009」は、「水の都・大阪」の魅力を広く伝えるためのシンボルイベントとして、大阪府、大阪市、経済界、市民が一体となって開催されました。

大阪市内の各会場において、子どもから大人まで楽しめる体験型アートプログラム、水と光を駆使した幻想的なショーなど盛りだくさんの催しが行われ、当初予想の100万人を大きく上回る延べ190万人の方々がお来場され、水辺ににぎわいと笑顔が溢れる52日間でした。

これもひとえに、準備・企画の段階からイベントの実行まで支えて下さった水都大阪2009実行委員会事務局、170組を超えるアーティスト、多くのサポーター・ボランティアスタッフ、NPO法人や市民の皆さん、舟運など連携事業に携わって下さった関係各位のご尽力の賜物と心から感謝いたします。併せて、多数の企業よりご協賛・ご支援を賜わり、ありがたく厚くお礼申し上げます。

本イベントは「水の都・大阪」の魅力を再発見し発信するとともに、多様な人々の参画と協働により、未来の大阪の街づくりに向かって歩み出すきっかけとなりました。

また、イベントによる経済波及効果やパブリシティ効果も大きく、大阪の経済活性化におおいに寄与しました。「水の都・大阪」というブランドが内外に広く発信・周知されたことは、大阪・関西への観光集客促進においても意義深いことです。

「水都大阪2009」を一過性のイベントとして終わらせることなく、これを契機に育まれたネットワークや新たな仕組みを今後の取組みに活かすとともに、大阪府、大阪市のリードのもと「大阪の街を元気にするムーブメント」が将来にわたって継承・継続されることをおおいに期待しています。



水都大阪2009実行委員会 委員
橋下 徹
大阪府知事

「水都大阪2009」が大盛況のうちに52日間の日程を終えました。

開幕まであと1年4ヶ月に迫った平成20年4月、水都大阪2009実行委員会の席で、私は事業計画案や予算案に反対を表明し、同年6月に改めて審議をやり直していただきました。それは、大阪の貴重な資産である水辺を活かして、「大阪といえば水の回廊の美しい風景」と誰からも思われるような際立った特徴ある景観づくりに、水都大阪2009事業として重点的に取り組んでほしいとの強い思いからの発言でした。

その後、関係者の皆様には橋梁のライトアップ事業など、府の提案も受け入れ全力で取り組んでいただいた結果、多くの人々から「中之島・八軒家浜周辺がきれいになってより親しみを感じるようになった」との声を聞くことができました。改めて皆様のご理解とご協力で感謝申し上げますとともに、今後とも、力を合わせて「水と光のまちづくり」に尽力していきたいという思いを強く感じているところです。

私は、水辺のにぎわいをつくるためには、ハード、ソフトの取り組みの相乗効果を念頭に置きながら、継続的に進めることが重要だと思っています。

「水都大阪2009」の開催はまちづくりの大きな契機になりました。天神橋、難波橋、錦橋の3つの橋梁のみならず、八軒家浜や南天満公園、木津川のウォールペインティング、大阪市による中之島公園や道頓堀遊歩道の整備など、水の回廊のさまざまな拠点で人が賑わう舞台の整備が進みました。そして、これらの場所で飾らない、手づくり感のある水辺を楽しむさまざまなプログラムが展開され、子どもから高齢者まで多くの人々の心をつかんだことが、「水都大阪2009」の成功のカギだったのだと思います。

「水都大阪2009」は、水と光のまちづくりにますます磨きをかけ、世界に売り出していくキックオフだと考えています。スピードを緩めることなく、行政、企業、府民・NPO、まさにオール大阪で取り組みを進め、大阪を明るく元気に、魅力あふれる都市にしたいと思いますので、ご協力よろしく願い申し上げます。

C O N T E N T S

- ごあいさつ2
- 開催趣旨4
- 水都大阪2009概要5
- 水都大阪2009 Area Map6
- プログラムの概要8
- 全体スケジュール10

第I章 水都大阪2009「写真編/見る記録」

- 前夜祭・オープニングセレモニー12
- 水辺にアートが開花する、大阪の文化がよみがえる-
- 水辺の文化座14
- 水都アート回廊20
- アート船プログラム21
- 水都大阪2009記念シンポジウム21
- 光が世界に発信する、水都の魅力と美しさ-
- 橋梁ライトアップ22
- ナイトプログラム「水の回廊 時空の架け橋」23
- 灯りプログラム24
- 市民がつくる、水を楽しむ、元気な大阪-
- 水辺の社会実験26
- 船着場プログラム(地域協同企画)30
- 大阪ステキ発見32
- 水辺を活用した新しい「賑わい空間」の創造-
- 水都朝市リバーカフェ34
- 北浜テラス(大阪川床)35
- クルーズ&ウォーク/OSAKA旅∞
(おおさかたびめがね)36
- 共催プログラム39
- 「水都大阪2009」を盛り上げたその他の取り組み40

第II章 水都大阪2009「資料編/読む記録」

- 「水都大阪2009」開催までの経過42
- 実行委員会・企画調整委員会等名簿43
- 2009年(シンボレイヤー)関連事業44
- 広報・PR活動46
- 「水都大阪2009」の継承・継続について48
- 「水都大阪2009」と市民参加50
- 数字で見る「水都大阪2009」51
- 協賛者等52
- プログラム実施者・協力者等53
- プロデューサーのメッセージ54
- あとがき56

★開催趣旨

「水の都大阪」。古来、瀬戸内の海を経て内外の新しい技術や文化が難波津に流れ込みました。その後、「天下の台所」と呼ばれた江戸時代、そして「東洋のマンチェスター」と呼ばれた近代に至るまで、縦横無尽に開削された堀川が都市の物流を担う動脈になりました。

川面には無数の舟が浮かび、道頓堀の芝居小屋や中之島の納涼など、川辺はいつも賑やかな声であふれていました。豪商たちの名を冠した淀屋橋・常安橋に代表される八百八橋は、町人たちの誇りでもありました。

いずれの時代にも「川」は大阪に恵みをもたらし、瀬戸内の海は水の都のバックボーンとして常に美しく、たゆとうていました。

「水都大阪2009」は生命の源である水・人間活動の場としての川をいま一度見直し、美しい「水の都」の復興を広く伝えるプロジェクトです。

「川」と「人」の絆を結びなおし、その絆を礎に新しい都市の景観や産業・文化を生み出すことをめざします。



★水都大阪2009概要

名称 水都大阪2009 AQUA METROPOLIS OSAKA 2009
 テーマ 川と生きる都市・大阪
 キーワード 連携・継承・継続
 基本コンセプト

- 水都大阪の魅力を生み出し、世界に発信
- 市民が主役となる、元気で美しい大阪づくり
- 開催効果が継続し、都市資産や仕組みが継承されていくまちづくり

開催日程 2009年8月22日(土)～10月12日(月・祝) [52日間]

開催時間 10:00～21:00

*プログラムにより一部異なる(最終日20:00終了)

会場 中之島公園・八軒家浜、水の回廊エリア 他

主催 水都大阪2009実行委員会(会長:平松邦夫大阪市長)

【構成団体】経済産業省近畿経済産業局、国土交通省近畿地方整備局、国土交通省近畿運輸局、大阪府、大阪市、(社)関西経済連合会、大阪商工会議所、(社)関西経済同友会、(財)大阪21世紀協会、(財)大阪観光コンベンション協会

プロデューサー 北川フラム(アートディレクター) 橋爪紳也(大阪府立大学教授)

総合アドバイザー 安藤忠雄(建築家、東京大学名誉教授)

展開方針 アート

- 市民と交流・協働するアートでまちづくりを促進
- 美しい都市空間の実現を促進
- 創造的人材の育成と集積を促進

市民参加

- 街の主役・担い手である「市民」が積極的に参加することにより、次代の社会をつくる「エンジン」となることを推進
- 都市の利用者である市民の視点からの参加を誘発
- 市民活動の量と質の向上を促進

将来への継承 「大阪」=「水都」という街のブランドイメージの確立と発信

- 魅力的な景観・文化を創出
- 主体的にまちづくりに関わる人材の育成と集積
- アーティストと市民、地域コミュニティ等の多種多様な交流ネットワークの創出
- 新たな水辺活用による賑わい空間の形成
- まちづくりに関わる様々なモデル・仕組みを創出

★シンボルマーク・ロゴマーク



水都大阪2009
 AQUA METROPOLIS OSAKA 2009

「水辺に輝きを創出する」

水という文字が集まり形成されることで、光を放ち輝く美しい水の回廊を表現。そこには、水辺に輝き(=美しさ・賑わい)を創出し、光と水に彩られた美しい「水の都大阪」を実現させたいという願いを込めている。

デザイン: ヤマモト ヒロユキ(ピクト代表)



水都大阪2009 Area Map

AQUA METROPOLIS OSAKA 2009

川に囲まれ、川でつながる大阪のまち全体が会場になりました。



A
中之島公園会場

堂島川と土佐堀川にはさまれた、
親水性の高い公園。
あふれる緑と美しいバラ園に彩られた
都心のオアシスです。

B
八軒家浜会場

名前の由来は、江戸時代に
八軒の船宿があったことから。
近年、水陸の交通ターミナルとして
整備された大阪の新名所です。

C
中之島水辺会場

大小20以上もの橋がかかる
中之島は、大阪の経済発展の歴史や
文化を象徴する代表的なゾーン。
会場はこの東半分を使いました。

D
水の回廊

堂島川・土佐堀川・木津川・
道頓堀川・東横堀川で形成される
水の回廊。
カタカナの「口」の字型になっています。

E
まちなか会場

水の回廊に囲まれた、
まさに大阪のど真ん中。
「堀」や「橋」がつく地名も多く、
水都の古をうかがい知ることができます。

参加型 参加型プログラム 水辺体験 水辺体験型プログラム 鑑賞型 鑑賞型プログラム
 ◎ 日中に行われたプログラム ★ 夜間に行われたプログラム

A 中之島公園会場 Nakanoshima park

「水都大阪2009」のメイン会場は、川に囲まれ、歴史都市としての魅力を伝える中之島公園。公園内では、ロケーションを存分に活かした盛りだくさんのプログラムが行われた。52日の期間中は、昼も夜もにぎわいが絶えず、さながら「夢と灯りのアイランド」へと変貌した。

●水辺の文化座

参加型 ◎ 会期中毎日(※内容は日によって異なる)
 「つくる」「あそぶ」「はなす・みる」という3つのテーマに基づく100以上のワークショップを展開。特設小屋の屋内外、会場内のいたるところで、五感を使いながら親子で楽しめるプログラム。

●灯りプログラム

参加型 ★ 会期中日没後(※内容は日によって異なる)
 市民参加とアーティストによる「つながる」「つくる」「いろいろ」の3つのテーマの「灯り」。趣向を凝らした灯りが大阪の夜を幻想的に変える。

●アート船プログラム

鑑賞型 ◎ 会期中の週末・連休に運航
 ヤノベケンジが装飾したアート船が、各船着場を中心に水の回廊を巡航する。



B 八軒家浜会場 Hachikenya-hama

八軒家浜は江戸時代、京都と大阪を結ぶ淀川三十石船の発着場で、人々が集うにぎやかな場所。この会場では、テクノロジーを駆使した映像と水と光の幻想的なショーをはじめ、かつてのにぎわいを彷彿とさせる朝市、市民企画プログラムなどが開催された。

●ナイトプログラム「水の回廊 時空の架け橋」

鑑賞型 ★ 会期中日没後(※8月24日・9月21日・10月12日を除く月曜日は休演)
 水・光・映像を駆使し、「時空を旅する子どもたち」をテーマに幻想的なショーを展開。

●水都朝市リバーカフェ

水辺体験 ◎
 <マーケット&カフェ> 8月22日~31日/9月19日~23日・10月10日~12日
 <朝市> 8月22日・23日・30日・9月20日・10月11日
 大阪の魅力である「食」をテーマに、季節の野菜や果物、全国の特産物が並ぶマーケットやカフェが登場。

●大阪ステキ発見

参加型 **鑑賞型** ◎
 会期中毎日10:00~18:00(木曜日は作品入れ替えのため休演)
 写真と言葉から大阪の魅力を再発見する。応募作品を展示し、優秀作を選ぶ。

●水辺の社会実験

参加型 ◎ 9月19日~23日の5日間
 水辺空間の新しい楽しみ方や水辺の活性化をテーマに市民が自ら企画・実施するプログラム。



C 中之島水辺会場 Nakanoshima Waterfront

船が行き交う複数の川にすっぽり囲まれた中之島。水都大阪のシンボルである橋を光のアートで彩り、土佐堀川左岸には川床を登場させるなど、川辺のにぎわいを創出した。

●橋梁ライトアップ

鑑賞型 ★ 8月22日~常時点灯(※錦橋は2008年12月13日より先行して点灯)
 錦橋・難波橋・天神橋をそれぞれの歴史や形に合わせて、美しくライトアップ。

●北浜テラス(大阪川床)

水辺体験 ◎ ★ 8月22日~
 土佐堀川に登場した川床。川を行き交う船や、中之島の豊かな緑、近代建築を鑑賞しながら食事が楽しめる。

●水辺の社会実験

参加型 ◎ 9月19日~23日の5日間
 水辺空間の新しい楽しみ方や水辺の活性化をテーマに市民が自ら企画・実施するプログラム。

●共催プログラム

参加型 ◎ 8月29日/9月19日・20日
 地元・企業・行政などとの積極的な共同・連携により、川の魅力を伝えるプログラムを開催。



D 水の回廊 Water corridors

大阪の中心部に川でできた「口」の字。水の回廊が都心にあるのは、世界的にも珍しく、大阪が誇るべき都市の資産である。大阪ならではの水辺体験ができるこのスポットでは、船着場を拠点にした新しい水辺の楽しみ方が提案された。

●クルーズ&ウォーク/OSAKA旅(おおさかたびめがね)

参加型 ◎ 会期中の土日祝を中心に毎週実施
 まちあるき企画と川巡りを組み合わせたプログラム。市民ガイド(エリアクルー)が、かくれた大阪の魅力を紹介する。

●船着場プログラム(地域協同企画)

水辺体験 ◎ 会期中の土日祝を中心に実施
 船着場をより日常的に使って水辺を楽しむプログラム。本町橋船着場、太左衛門橋船着場、湊町船着場、大阪ドーム千代崎港にて開催。

E まちなか会場 Various sites in Osaka city

「水都大阪2009」は中之島界限だけではなく、大阪市内各所の様々な場所でも展開。歴史的建築物とアート作品のコラボレーション、水都再生に向けて市民と一緒に話し合うシンポジウムを開催。

●水都アート回廊

鑑賞型 ◎ 会期中毎日(※場所によって異なる)
 大阪を象徴する歴史的な建物や空間にアート作品を設置することで、大阪の魅力や輝きをよみがえらせるプログラム。

●水都大阪2009記念シンポジウム

参加型 ◎ 9月22日
 国内外から多分野の専門家を招き、水都として大阪の歴史、文化、交流をテーマに開催。



